

表彰対象建築物名称	ROKI Global Innovation Center -ROGIC-			<p>環境配慮の内容とその目的</p> <p>■ 室内環境対策</p> <p>① 昼光利用設備：屋根トップライトと中間階吹抜による昼光利用により昼光率 2.53%を実現した。</p> <p>② 昼光制御：屋根ルーバーとトップライトの電動ブラインドによりグレアを制御し、執務環境の向上を図った。</p> <p>■ 室外環境（敷地内）対策</p> <p>① 生物環境の保全と創出：立地調査による周囲の生物資源の保存と新たな植栽により外構緑化 79.48%を確保した。</p> <p>② 街並み景観への配慮：主要な眺望点（飛龍大橋）からの眺望に配慮し、地形に沿った山並みの一部のような建物形態とした。</p> <p>■ エネルギー対策</p> <p>① 自然エネルギー利用：光膜天井による自然採光システムと、自然地形を利用した外気の取込みによる自然通風システムにより、自然エネルギーを積極的に取り込んでいる。</p> <p>② モニタリング：BEMS により用途別エネルギー消費量の詳細な把握、外部環境と自然エネルギー利用の相関評価、設備機器の COP などを評価・分析することで更なる省エネルギー管理を行っている。</p> <p>■ サービス性能対策</p> <p>① 耐震性：基準法の 1.5 倍の耐震性を確保している。</p> <p>② 更新性：ISS（設備階）の設置、更新スペースの確保により、設備の更新性が容易に行える計画としている。</p>
建設地	浜松市			
建築主	株式会社 ROKI 代表取締役社長 島田 貴也			
設計者	株式会社小堀哲夫建築設計事務所 小堀 哲夫			
延べ面積	8,319.84 m ²	規模	地下 0、地上 4	
構造	RC 造			
用途	事務所			
CASBEE 評価	A	BEE 値	2.7	
建築物写真				
建築主として求めた環境配慮に対する総合的なコンセプト	<p>周囲に広がる山脈や南に流れる天竜川という立地を最大限に有効活用すること。また自社のフィルトレーション技術の考え方を建築に置き換えた自然エネルギーの利用と知的生産性の向上を同時に実現するエコリーディングオフィスを目指した。</p>			

環境配慮の内容とその目的（補足資料）

①庇による日射負荷低減

深い庇により夏の日射を遮り、冬の日射はアルミルーバーすだれによりやわらかい光を取り入れる。

②ルーバーによる日射負荷低減

夏の日射は完全に防ぎ、冬の日射はフィルトレーションされ取込む。

③グラデーションオフィス

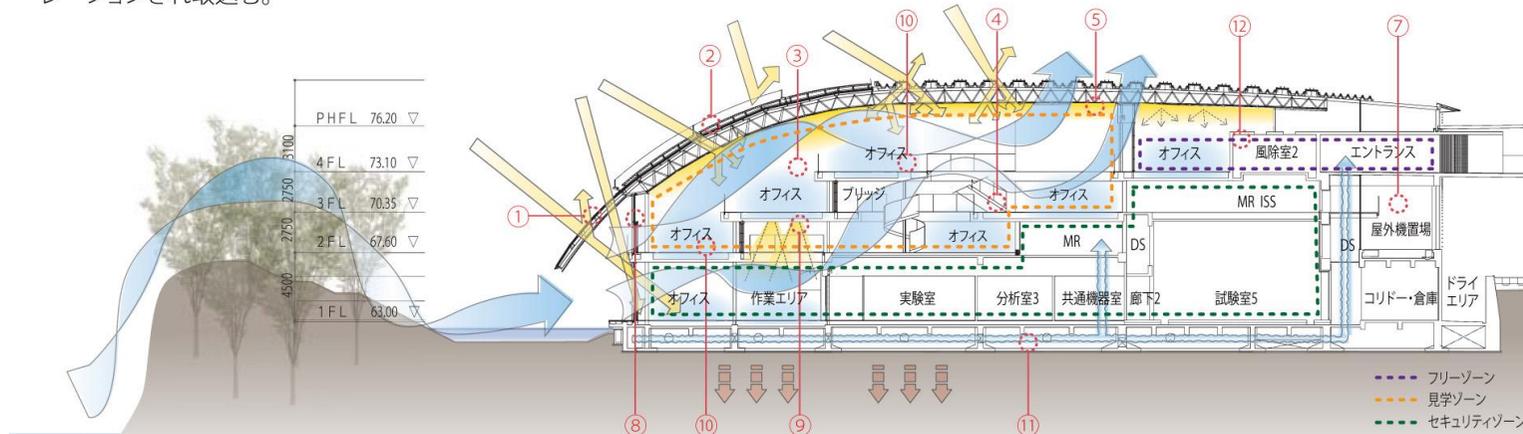
好みの場所を選んで働くフリーアドレスオフィスとして、日射・温度・明るさ・風を人が選び許容されることで空調エネルギーが低減される。
半外部/熱的バッファゾーンとして自然空調を行う。
(S E T * による評価により許容温度を広げる)
それにより一部“半外部オフィス空間”が生まれる。

④スキップフロアによる一体空間

階高を2.75mとし階段を多く設置することでE Vの使用を抑制する。

⑤光のフィルトレーション

L E D照明・自然光・熱のフィルトレーションにより多様なオフィス空間をうみだす。



⑥環境測定と配置検討

天竜川、森、池により夏1.5℃冷却された外気を取込む。

⑦高効率空調

モジュールチラー
大温度差送水
変流量制御

年間を通しエネルギー効率を向上させる。

⑧フルオープンサッシとエコモニター

執務者の判断で自然換気を行う。
執務者自身が選択することで省CO₂への参加意識を高める。

⑨L E D器具の開発

新たに開発するL E D照明は次世代の発光効率を見据えたグレアのない優しい照明となる。

⑩自然採光による無照明オフィス

天井からの自然光とROKIフィルターの拡散により、雨天時以外は人工照明が不要となる。

⑪クール・ウォームピットによる地中熱利用

夏0.7℃温度降下、冬0.5℃温度上昇となる。

⑫セキュリティゾーンの形成

会社見学会を見据えてセキュリティを3つのゾーンで分離する計画としている。

タスクアンビエント空調

床輻射空調及び床吹出空調による居住域のみを空調することで、省CO₂とする。吹出口は個人で開閉可能であり好みに応じた環境を選べる。

タスクアンビエント照明

基準照度を抑えることで省エネを図るとともに執務者は好みに応じたタスクライトを点灯させる。